なびぃ通信

なびぃつうしん

2023年 2・3月号

社会福祉法人
多摩棕櫚亭協会

発行者
社会福祉法人多摩棕櫚亭協会地域活動支援センターなびぃ
〒186-0003 国立市富士見台 2-8-7 ラフォーレ国立Ⅲ101

TEL　042-571-3103
FAX　042-505-6763
火～土 10：00～18：00
（日・月・祝日定休）

■もくじ■

1～2ページ 新職員紹介　高校出前講座報告　3ページ プログラム予定　4ページ ２・３月の月間予定

新しいスタッフが増えます

なびぃに新しい非常勤職員さんが来てくださることになりました。昨年、学生実習で来て下さった大学生の酒井　康太（さかいこうた）さんです。お会いしたことがある方もいらっしゃるのではないかと思います。２月２日（木）から、週２日（木）（土）勤務して下さいます。

２月お楽しみ会で歓迎会を開きます（詳しくは３P 参照）。ぜひご参加下さい！

第五商業高校　出前講座に参加してきました

なびぃは以前より国立市が運営している『くにたち精神しょうがいしゃ支援連絡会』に参加してきました。今年度、高校の保健体育教科書に約 40 年ぶりに精神疾患の記述が復活したことを受けて、連絡会として高校生に当事者や支援者が直接お話しする機会を作りたいと考え準備をしてきました。

昨年 12 月 14 日ついに、それを実現する機会を得ることができました。市内にある高校『第五商業高校』さんにご協力頂き、１年生の保健体育の授業の一貫として出前講座を行うことができました。なびぃメンバーでもある日塔龍也さんと奥迫の２名が、連絡会のみなさんと一緒に壇上に上がらせて頂きました。

→２ページへつづく

教科書に精神疾患の記述復活

当事者が国立市の高校で授業

「あなたは決して一人じゃない」

本年度からの文部科学省指導要領改定で、高校の保健体育の教科書に精神疾患の記述が約四十年ぶりに復活したことを受け、うつ病や統合失調症などの当事者が十四日、国立市の都立第五商業高校で生徒に向けて授業を行った。（岡本太）

精神疾患の当事者として授業を行ったのは国立市内に住む田塔龍也さん（29）ら二人。同校の一年生約二百五十人が出席した。

田塔さんは二十代後半でうつ病を発症。授業では出席の様子を振り返り、「時々右手が震え、キーボードが打てなくなった。裏付けが乗っていなかったり、明記されるのがつらくなった。それでもおうち時間しかいいか分からず、職場の人には申し訳ないと」と説明。「ありがとう」と投げかけた。

統合失調感情障害を患う市内の四十代女性は、小学生の時にいじめを受け、不登校になった経験を紹介。「どうしても耐えられないときは逃げてください。皆さんには私のような思いをしてほしくない。症状が悪化する前に、周りに相談してください」と語った。

授業には、精神疾患当事者の支援団体や市職員も先生役として参加した。

授業を受けた鈴木幸珍さん（16）は「同じような悩みの時に落ち着かない時期があった。誰かに悩みを打ち明けることも、周りの人の悩みを聞くことも大切だと思った」と話した。

精神疾患は十代での発症が多く、本年度からの高校の保健体育の項目に追加、正しい理解と対応、個別解消などが期待されている。授業の内容は、支援団体や市などでつくる「くにたち精神しょうがいしゃ支援連絡会」が企画した。

精神疾患について高校生に向け出張講也さん＝国立市の都立第五商業高校で

↑2022/12/15 東京新聞朝刊掲載記事